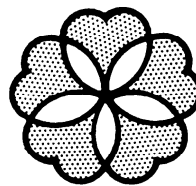


### ＜創立以来の教育目標＞

- 身体を鍛えよう
- 思いやりの心を身に付けよう
- 知性を高めよう
- 創造性を培おう
- 自主独立の心を養おう



五枚の花弁は、創立当初の五つの教育目標を表し、花弁の縁の重なりは全校一体となる友情の絆を、その重なり合いの白い色は純粋・清潔を根底とする人間形成を行うことを意味している。

## I 目指す学校

生徒一人一人の豊かな人格の形成を目指し、社会の有為な形成者として、人権尊重の精神に基づき、国際社会において平和と文化の進展に寄与することのできる資質を養う。社会人として必要な規律、規範を身に付けるとともに「社会に貢献する精神」を育てる。

小さな学校の特性を生かして一人一人の生徒に目が届くきめの細かい指導を心がけ、良質な進路多様校として生徒の希望進路の実現を図る。

### ○安心していきいきと学べる学校

安全で快適な学習環境の整備、学習意欲を引き出し生徒が伸びる授業を実施する。個性を活かし、「生きる力」を向上させる教育を展開し、生徒への支援体制を充実させる。

### ○自ら将来を切り拓く力を育成する学校

3年間を見通したキャリア教育全体計画に基づき、生徒の希望進路実現を図る。学習や特別活動等、調和の取れた活動で得た経験を活かし、心身ともに健康な知力、体力を身に付けさせる。

### ○地域に根差し、地域から信頼される学校

地域と交流するとともに、地域の教育力を活用することで地域からの信頼を得る。また、多様性を尊重し、共生社会の中で積極的に社会的役割を果たせる人間を育てる。

## II 中期的目標と方策

### ＜目標＞

- 1 意欲的、主体的に取り組む学習習慣を確立する。
- 2 規範意識を身に付けて基本的生活習慣を確立する。
- 3 部活動や学校行事等特別活動の活性化を図る。
- 4 高い志を育み、生徒の自己実現を図る。
- 5 国際交流など特色ある学校づくりを進める。
- 6 組織的な広報活動の一層の充実を図る。

## ＜方 策＞

- 1 教科指導力向上及び授業改善を継続して行うとともに、これからの育成すべき生徒像を明確にした教育課程編成と教科指導内容の充実を図る。
- 2 あらゆる機会を通して、社会人として備えるべき常識やマナー、規範意識を身に付けさせるとともに、教育相談機能を充実させ、きめの細かい生徒理解を進める。
- 3 部活動や行事等の特別活動において、友人、上級生、下級生との協調から連帯感や学校への帰属意識を醸成するとともに、努力することの大切さや達成感を体感させる。
- 4 3年間を見据えたキャリア教育全体計画を推進し、継続したデータ分析、及び定点観測によるきめ細かな進路指導を実施し、生徒の希望進路の実現を図る。
- 5 都教育委員会からの研究指定校の取組を有機的、横断的に組み合わせて学校の特色化を進めて、生徒、保護者からの信頼を高める。
- 6 保護者・地域及び中学校等に対して、本校の特色ある教育活動を積極的に情報発信し、募集対策の充実を図る。

## Ⅲ 今年度の取組目標と方策

3年後に迫った50周年記念行事を見据え、地域や同窓会、PTA等関係諸団体と連携して計画的な準備、取組を進めるとともに、学校として組織的、継続的な指導体制を構築して学校経営を行う。

### 1 学習指導

#### ＜目 標＞

生徒の学習意欲を引き出し、主体的に取り組む授業を実施する。個性を活かし、「生きる力」を向上させる教育を展開する。グランドデザインに基づいてこれからの育成すべき生徒像を明確にして教育課程の編成を進める。

#### ＜方 策＞

- (1) 教科主任会議を定期的実施し、教科指導の課題を共有し解決する。
- (2) 授業時間確保に努めるとともに、生徒が落ち着いて学習に取り組むだけでなく、自宅学習の習慣化を図る。
- (3) 数学、英語での習熟度別少人数編成授業等の充実から基礎学力の定着と向上を図る。生徒にとってわかりやすい授業を行うためICTの活用やBYODの活用を考える。
- (4) 主に特進システムの取組として、漢字検定、数学検定、英語検定の受験を促し、生徒の学習意欲喚起と資格取得を図る。
- (5) キャリア教育全体計画を踏まえて総合的な学習の時間を充実させ、次期学習指導要領の「総合的な探究の時間」につなげる指導を展開していく。
- (6) 生徒の探究的な態度を育成するとともに、NIEに積極的に取り組み、すべての教科で言語活動を重視し、読解力、表現力の育成の指導の充実を図ることで「生きる力」を育む。
- (7) 教員相互の授業見学や、授業改善、新教育課程編成のための校内研修を充実させる。

### 2 生活指導

#### ＜目 標＞

18歳成年制度を視野に入れて、健全な市民の育成を目指し、組織的な指導体制で、責任ある社会人とし意識の涵養を図るとともに、防災教育研究指定校の取組から地元自治体等と連携してボランティアマインドを育み、地域社会に貢献する人材を育成する。

#### ＜方 策＞

- (1) 学校全体で、挨拶、時間厳守等社会人として通用するマナー、ルールを身に付けさせるとともに、校内美化を徹底し、教育環境整備に取り組む。

- (2) 身に付けさせる規律・規範計画及び特別指導の指導計画を基に生活指導を行う。組織的な生活指導を展開し、統一した授業規律の確立を図る。
- (3) 防災教育研究指定校の取組から地域社会と連携した避難所運営等防災教育の充実を図る。
- (4) 自転車の交通ルール・マナー指導を徹底するとともに、危険回避能力を育成する。
- (5) 養護教諭を中心とした教育相談委員会を充実させて、きめ細かい生徒理解に努めて教育相談機能を充実させる。
- (6) 自他の存在及び生命を尊重する態度を育成して、自殺予防対策の教育を進めるとともに、男女平等の精神に基づいて、豊かな男女の人間関係を築けるようにする。
- (7) スクールカウンセラーと連携して体罰根絶、いじめの未然防止、早期発見・対応を行う。
- (8) 公民としての権利と義務を自覚させ、主権者教育、消費者教育、租税教育等を充実させるとともに、防災教育の充実を図り、「自助」「共助」の精神を養う。
- (9) 部活動及び体育の授業、マラソン大会等を活用して、生徒の基礎体力向上を図る。

### 3 特別活動・部活動

#### <目 標>

体育祭、文化祭、部活動等の特別活動を活性化させるとともに、海外学校間交流推進校の指定を受け国際理解教育を推進して生徒のグローバルな視野を広げる。

#### <方 策>

- (1) 体育祭、文化祭等の学校行事への取り組みを通して各種のリーダーを育成し、自主的、主体的な活動を推進する。
- (2) メディアリテラシー教育としてのセーフティ教室、薬物乱用防止等の指導を通して、心身共に健全な生徒の育成を図る。
- (3) 部活動の加入率及び定着率を向上させて部活動の充実を図るとともに、部活動指導方針を明確にして、体罰や暴力的指導や行き過ぎた指導のない計画的な部活動を行う。
- (4) 文化・スポーツ等特別推薦の充実に向けた組織的体制を構築し、部活動を活性化させる。
- (5) 部活動、生徒会による地域交流並びに地域貢献活動の充実を図るとともに、組織的な国際交流の取組を進める。
- (6) オリンピック・パラリンピック教育を充実させ、そのレガシーの構築の取組によって、海外の学校と様々な交流を通じて豊かな国際感覚を培う。

### 4 進路指導

#### <目 標>

計画的、組織的な進路指導を充実させるとともに、高い志をもった生徒の希望進路実現を目指し、社会の有為な形成者の育成を図る。

#### <方 策>

- (1) 3年間を見据えたキャリア教育全体計画をもとに、安易な進路選択者や、進路未定者を減らすために、学年及び進路指導部が連携して組織的、計画的に進路指導を行う。
- (2) 進路指導部主導で模擬試験、検定試験の受験について計画的に指導し、組織的な指導体制を確立する。
- (3) 個別面談、三者面談を充実させ、きめ細かく生徒・保護者への面談等を実施し、個々の生徒への理解と支援に努める。
- (4) 生徒一人一人の希望に応じた進路指導のために、外部試験の迅速なデータ検証を基に分析会等を実施し、教科指導の改善、指導に反映させる
- (5) 区役所等、地域の事業所と連携した1学年全員を対象とするインターンシップ体験を通じて、社会体験や働くことの重要性を理解させる。
- (6) キャリア教育全体計画をもとに、公民としての権利と義務を自覚させ、18歳成年制度を視野に入れて、主権者教育、消費者教育、租税教育、年金教育等を充実させる。

## 5 募集・広報活動

### <目 標>

地域から信頼され選ばれる学校を目指し、防災教育研究指定校やインターンシップ体験の取組等から地域交流を図るとともに、地域の教育力を活用して、学校の特色を積極的に情報発信する。

### <方 策>

- (1) 日常の教育活動をタイムリーに情報発信するために、ホームページ、ツイッター、「東京動画」等の動画投稿サイトを活用して積極的な情報発信と更新のさらなる向上を図る。
- (2) 近隣地域との交流を積極的に行い、本校の良さや特色をPRする。
- (3) 学校内外における学校説明会、学校見学会及び授業公開を充実させる。

## 6 学校経営・組織体制

### <目 標>

教育施策や、各種指定校の取り組みを活用して、教職員の経営参画意識と協働意識の醸成を図る。

### <方 策>

- (1) 国や都の「働き方改革」の推進を受け、休日の部活動指導や、長時間勤務を減らして教職員の勤務の軽減を図る。学校閉庁日は、長期休業期間中に適宜配置する。
- (2) T A I M S 等を活用して校内業務の効率化を進めることと、情報共有の推進を図る
- (3) 経営企画室の業務進行管理と合理化を進め、経営参画型の経営企画室として機能させる。
- (4) 企画調整会議、職員会議等、会議の運営改善及び業務の効率化を図る。
- (5) 計画的なO J T、校内研修を実施し、教員の人材育成及び能力、専門性の向上を図る。
- (6) 教職員の一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図るため、教職員には年間15日以上の子休取得を促す。

## IV 数値目標

	項目	数値目標	前年度実績
1	入学者選抜一次応募倍率	1.5 倍	1.55 倍
2	進路決定率（進学準備（大学浪人）を除く）	95%	92.8%
3	退学者数	0 名	3 名
4	生徒事故件数（管理内）	0 件	1 件
5	部活動加入率	60%	52%
6	ホームページ更新回数	180 回	172 回
7	年間遅刻延べ回数	8500 回	8105 回
8	学習指導満足度肯定回答	80%	77%
9	生活指導満足度肯定回答	80%	69%
10	進路指導満足度肯定回答	85%	83%
11	第3学年当初の第一希望の進路先実現率 （進学準備（大学浪人）を除く）	85%	81%
12	学校説明会等参加者数（組数）	1250 組	693 組
13	ボランティア活動への参加生徒数（延べ数）	300 名	64 名
14	夏季講習参加生徒数（延べ数）	500 名	実施できず
15	年次有給休暇15日以上取得者の割合	75%	38.6%
16	勤務時間外の在校時間が月間80時間を超える 教員の年間延べ人数	20 名	21 名